



政治のホンマを伝えるチラシ

月刊レオナンドス通信

www.nakanishireo.com/ 平成24年新春号 発行：中西レオ応援団

急ぐと失敗する

市長は中学校給食について、「公約であるから自らの今任期中に実施する」と述べられました。つまり、あと3年少しで給食の提供方式の決定、設備の建設、学校の改造、時間割の変更等を完了させるといふことです。中西レオも中学校給食は実施すべきと考えていますが、この先20年で100億円以上の予算を使う一大事業であり、一度始めると途中でやめてしまうわけにはいきません。「次の選挙までに」という理由で急ぐべきではありません。

民間で行こう

給食の提供方式としては、小学校のような自校方式、小学校から運ぶ親子方式、給食工場を作るセンター方式、民間企業が食缶で持つて来る民間調理方式、といったものが挙げられます。自校方式と親子方式は費用とスペースの面で実現は困難だと考えます。市はセンター方式を軸に検討しているようですが、私はベストではないと考えています。

おそらく、センター方式でも運営は民間になるでしょう。すると、技術面では民間調理方式と違いは少ない。しかし、センター方式だと税金で建物も設備も用意します。しばらくすると建て替えも必要になります。また、地産地消の面では、1万食を用意するのに地元野菜は足りません。食中毒が全校に及ぶリスクもあります。「2千食程度×5社というような民間分散を第一に検討すべきではないでしょうか。」

選挙のための給食では困る

子は宝。選挙は考えるな！

高校学区再編へ、学力アップが急務

学区再編の議論

高等学校の学区再編の方針を県教委が発表し、明石学区は東播磨の加印（高砂、加古川等）と北播磨（西脇、三木、小野等）と統合ということに。明石は市長、教育長、議長の連盟で反対の要望書を提出しています。中西レオは総合選抜制度が平成20年度に廃止されてから間もないことから現在（平成27年度入試から統合）は反対の立場です。

学力向上が急務

明石つ子が学区拡大後も進学先を確保するために、学力の向上が急務です。学力向上の取り組みを進めるべく他市の情報を収集しています。今後の提案に活かすため、皆様のご意見をお聞かせください。



市立と県立が並ぶ図書館
夏休みには席の確保が難しくなる

本を読みたい環境づくり

明石の学校は図書室の蔵書数が非常に少なく、活用もされていませんでした。平成21年度からの「ほんだいのすき！ぷらん」により蔵書数の増強と利用増が図られています。冷房化された小学校図書室は一人年間19冊の貸し出しがありませんが、中学校は2.7冊と低調です。放課後や夏休みに十分に開放されていないことで本が身近になっていないと考えられます。読書は学習にも人生を豊かにするためにも重要です。中学生が本を読む環境を整えなければなりません。

勉強する場所がない

図書室は受験勉強をするスペースにもなりません。市立図書館の自習席は本館100席、西部50席程で十分ではありません。勉強したい子どものために環境を整えることは大人の務めです。冷房化には1校あたり約150万円。13校では約2000万円の予算が必要ですが、12月の議会では前向きな答弁ではありませんでしたが、子どもの学習環境のために必要な投資ではないでしょうか。

明石市議会議員

中西レオの活動報告